

討論会「ドラえもんは 22 世紀に帰るべきか」

参考資料

この資料について

この資料は、「ドラえもんは 22 世紀に帰るべきか」についての参考資料です。この資料は「ドラえもんの概要」、「航時法」、「ドラえもんによって引き起こされた事件」という 3 つのテーマに分かれている。これらの資料だけでなく、時代を超えた幅広い知識を持って議論に臨んでほしい。

ドラえもんの概要

「ドラえもん」とは、21 世紀に住むネコ型ロボットのことである。(図 1)ドラえもんは小学五年生の「野比のび太」の家に居候しており、ひみつ道具を用いてのび太くんのお世話をしている。

そもそも、ドラえもんが 22 世紀から 21 世紀に来た理由は、のび太の犯した失敗により今なお貧困に喘いでいるのび太の孫の孫である「セワシ」(図 2)が、自らの境遇を良いものにするためである。なお、この世界では過去を変えると**時間軸はパラレルワールドに分岐せず未来そのものが変わるもの**とし、のび太の未来が変わってもセワシは生まれるものとする。(図 3)

後述する通り、ドラえもんとその仲間達によって様々な事件が起こり、その中には地球そのものの危機を脅かすものもあると同時に、ドラえもんによって解決した事件も多数存在する。そのため、ドラえもんを 22 世紀に返すべきかどうかについて慎重に検討を重ねる必要がある。



図 1



図 2 初対面のセワシ(左)とのび太(右)

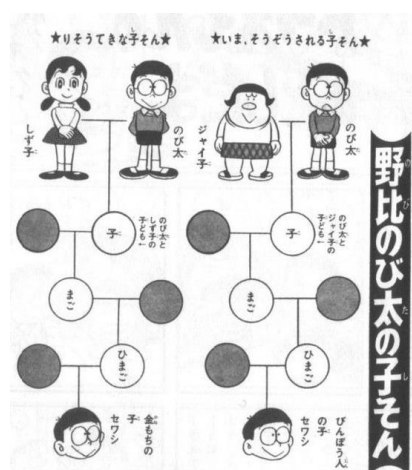


図 3

航時法

- 航時法とは

「航時法」とは、T・P(タイムパトロール)を含め全てのタイムトラベラーが遵守しなければならないタイムトラベルにおける法律である。以下は基本的な航時法と解説である。

1. T・Pは歴史の流れに関係ある人を救助してはならない。

→歴史の流れに関係のある人を干渉することによってタイムパラドックスが生じ、未来が変わってしまうことを防ぐ。逆に言えば、歴史の流れに関係のない人間であれば、未来を変えることは航時法違反とはならない。

2. 同じ時代の同じ場所に何度も介入してはならない。

→紙に何度も消しゴムをかけると紙が破けてしまうように、繰り返し何度も介入することで、時間そのものが破壊されるのを防ぐためである。これは何度も同じ時間を繰り返すことであり、時間に沿って21世紀に定住するドラえもんには適応されない。

3. 過去の自然に手を触れるときは未来に及ぼす影響を調査の上行うこと。

→過去の自然に介入することによって、その地域の植生などが変化するのを防ぐ。(この法律は世界線を共有する「T・Pぼん」においてあまり描かれていない。)

4. 歴史破壊未遂罪 時空を遡って自らの望む歴史を許可なく創り上げてはならない。

→「映画ドラえもん のび太の日本誕生」に登場する「ギガゾンビ」がこの法律違反に当たる。23世紀からやってきたギガゾンビは原始時代の日本にタイムスリップし、そこで自らを精霊王と名乗り原始人たちを支配する歴史を捏造し、タイムパトロールによって逮捕された。(図4、5)



図 4



図 5

ドラえもんによって引き起こされた事件

ドラえもんは「ひみつ道具」を用いて様々な事件を引き起こしてきた。以下は、ドラえもんによって引き起こされた事件の具体例である。

バイバイン事件

この事件は、のび太が栗饅頭を永遠に食べたいという願いから始まる。ドラえもんはひみつ道具である「バイバイン」を用いて栗饅頭を増やすことにする。この道具は5分ごとに数が2倍になっていく道具であり、のび太が食べきれずに捨ててしまった栗饅頭が指数関数的に増えていってしまう。(図6)とうとう收拾がつかなくなってしまった彼らは栗饅頭を宇宙へ飛ばすことで解決を図った。しかし、宇宙でもその数は倍増し、やがてブラックホールを形成するということが本編で示唆されている。また、のちに劇場版で今なお栗饅頭が宇宙を漂っていることが確認されている。



図 6

地球破壊爆弾事件

この事件は、ネズミを極端に嫌うドラえもんが暴走することで引き起こされる。耳をネズミ型ロボットに食べられてしまったというトラウマを持つドラえもんは、ネズミを極端に嫌っており、野比家にネズミが現れると途端にパニックに陥ってしまう。この際にネズミを地球もろとも破壊しようとして取り出すのが、「地球破壊爆弾」である。(図7) 実際に使用されていないため、本当に地球を破壊することができるのかは不明だが、22世紀の未来デパートで購入が可能であるひみつ道具である。ちなみに、その上位互換である「銀河破壊爆弾」の存在も確認されている。

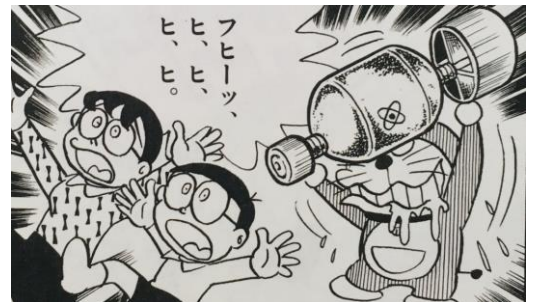


図 7

どくさいスイッチ事件

この事件は、ドラえもんが床に置いたままにしていたひみつ道具「どくさいスイッチ」をのび太が拾うことで始まる。このひみつ道具は、消したい任意の生物を消すことができる道具である。のび太はこの道具を用いて様々な人間を消していき、不注意で自分以外の全人類を消してしまう。初めはその状況を楽しんでいたのび太だったが、次第に自らが置かれている状況を理解し、涙を流す。しかし実際は独裁者を懲らしめるための道具であり、消された人間も元に戻すことができる。しかし、道具を使用することによってその存在が一時的に消えているという事実には変わりはない。

ドラえもん達によって解決された事件

ドラえもんの大長編(劇場版)では、ドラえもんとその仲間達によって解決した事件も存在する。前述した通り、「映画ドラえもん のび太の日本誕生」では、「歴史破壊未遂罪」を犯したギガゾンビはドラえもん達が早期に発見したことで、大きな歴史の改変をすることなくことなきを得た。また、「映画ドラえもん のび太の恐竜」では、航時法に違反する恐竜ハンターの「ドルマンスタイン」の逮捕に貢献している。

ドラえもんによって引き起こされた事件は多数存在するが、同時にドラえもんによって解決された事件も少なくない。

よくある意見とその反論

ドラえもんはのび太の未来を変えようとしているため歴史破壊未遂罪に当たる

→歴史破壊は歴史の流れそのものを変えることであり、のび太が将来、歴史の流れに関わる人物でない限り、のび太の未来を変えることは航時法違反とはならない、、、？(この際「歴史」は教科書に載る程度のものとする)

のび太は歴史の流れに関わる人物であり、未来を変えるのは航時法違反である

→のび太がドラえもんとは接触しなかった場合でもセワシが存在するため、歴史はのび太のいる21世紀で途絶えることなく22世紀につながることは明らかである。また、ドラえもん達の冒険の多くはドラえもん達によって引き起こされたもの、もしくは本来は遅かれ早かれT・Pが解決するはずだったものをドラえもん達が解決してしまったイレギュラーなパターンである。よってその時間軸では彼らの冒険は「そもそもなかったもの」であり、歴史に関わる大きな事件は「T・Pによって解決されたもの」となるため、ドラえもん達がいなかったとしても未来に大きな影響はないと考えられる。そのため、のび太が歴史の流れに関わる人物であるとは言えない。しかし、この反論はどの時間軸を「正史」として見なすかによって変わってくるため、一概には言えない。

まとめ

このように、ドラえもんは社会に対してプラスにもマイナスにも影響を与える存在である。繰り返しにはなるが、これらの資料だけでなく現代における倫理や価値観など幅広い知識を用いて議論に臨んでほしい。しかし何より大切なのは、我々の選択次第でのび太くんから「友達」を奪いかねないということを忘れないでほしい。ドラえもんが22世紀に帰るかどうかの是非は、一人一人が意見を出し合って決めていってほしい。